

工事概要

設計 菊竹清訓建築設計事務所
 構造 早大 松井源吾構造研究室
 協力 星川明雄
 設備 指導 川合健二
 菊竹清訓建築設計事務所

協力 造園 流政之
 グリル 栗津潔
 棟礼 岩田藤七
 家具 大和勝太郎

監理 菊竹清訓建築設計事務所
 施工 大成建設株式会社
 P.C.工事 漆建材工業株式会社
 P.S.工事 オリエンタル工業株式会社
 工期 1961.10~1963.5

建築概要

- 1 鉄筋コンクリート造平家建一部中2階
 P.C.コンクリート, P.S.コンクリート組立架構
 最高高さ 8.04m(棟梁上端)
 (本殿高さ 20.60m)
 (拝殿高さ 13.00m)
 深さ 3.02m(棟柱基礎下端)

主屋内北	41.90m(棟柱間隔)
東西	10.50m
棟柱高さ	6.04m
棟梁全長	47.44m
2 床面積	
半地階	23.50m ²
1階	375.26m ²
中2階	203.02m ²
別棟	29.24m ²
合計	631.02m ²

1953年5月の火災によって、讀火殿、庁の舎、拝殿が焼失したため、その復興として拝殿および庁の舎の建設がとりあげられた。拝殿は、さる1959年5月福山敏男博士によって見事に復興をとげ、輝くばかりの木造建築が完成をみている。

引きつづいて、庁の舎が復興されることになった。

庁の舎は、いわば社務所ともいべき性格のもので、復興されるにあたって、十分な耐火、耐蝕性の建造物でなければならないという条件があたえられた。

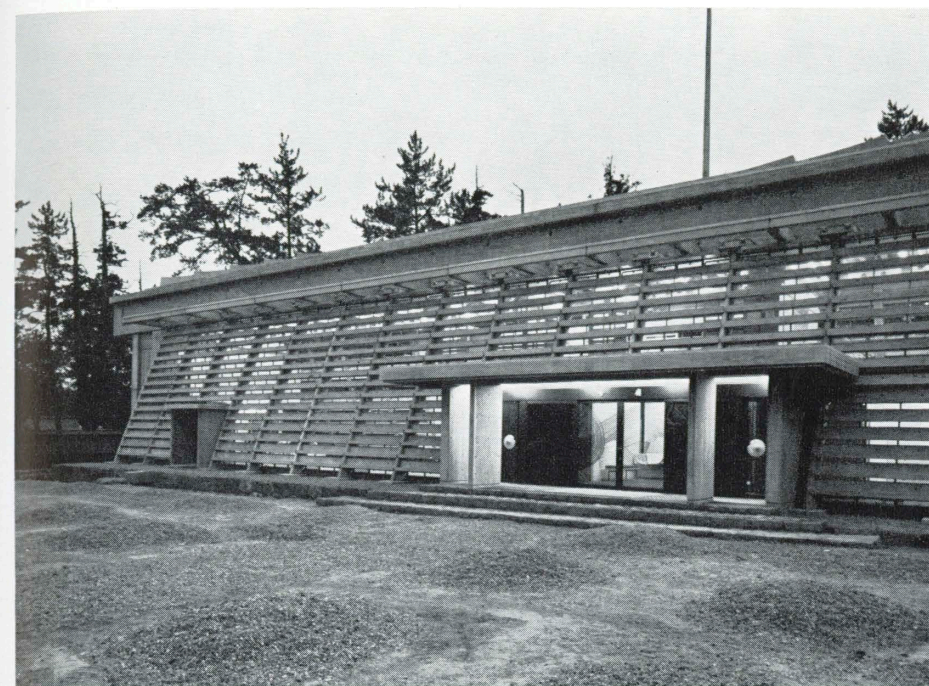
木造建築でとくに古い伝統と秩序を持った出雲大社の神域の中に現代技術としてのコンクリートをどのように導入するかがわれわれの課題のひとつであった。

IZUMO GRAND SHRINE OFFICE BUILDING

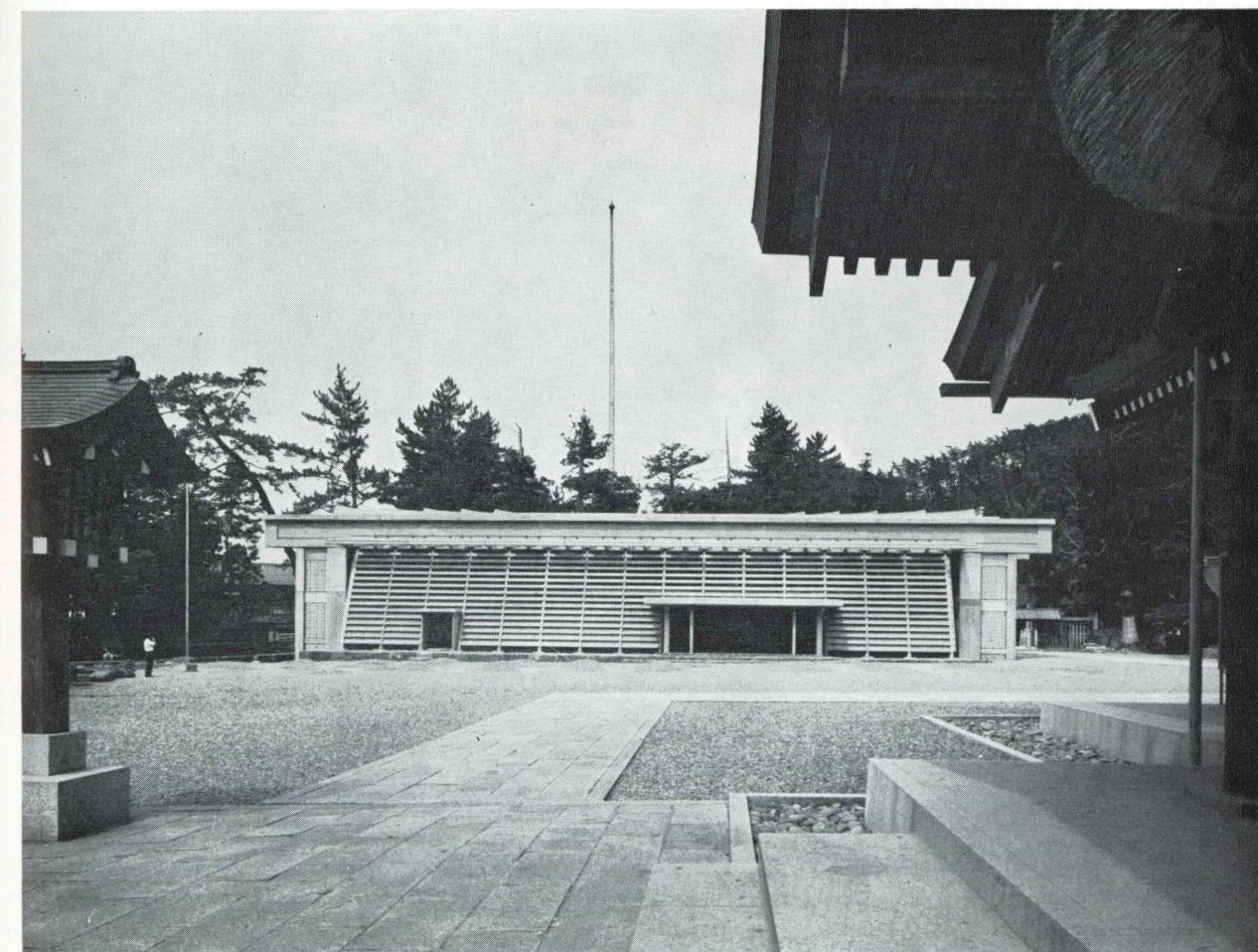




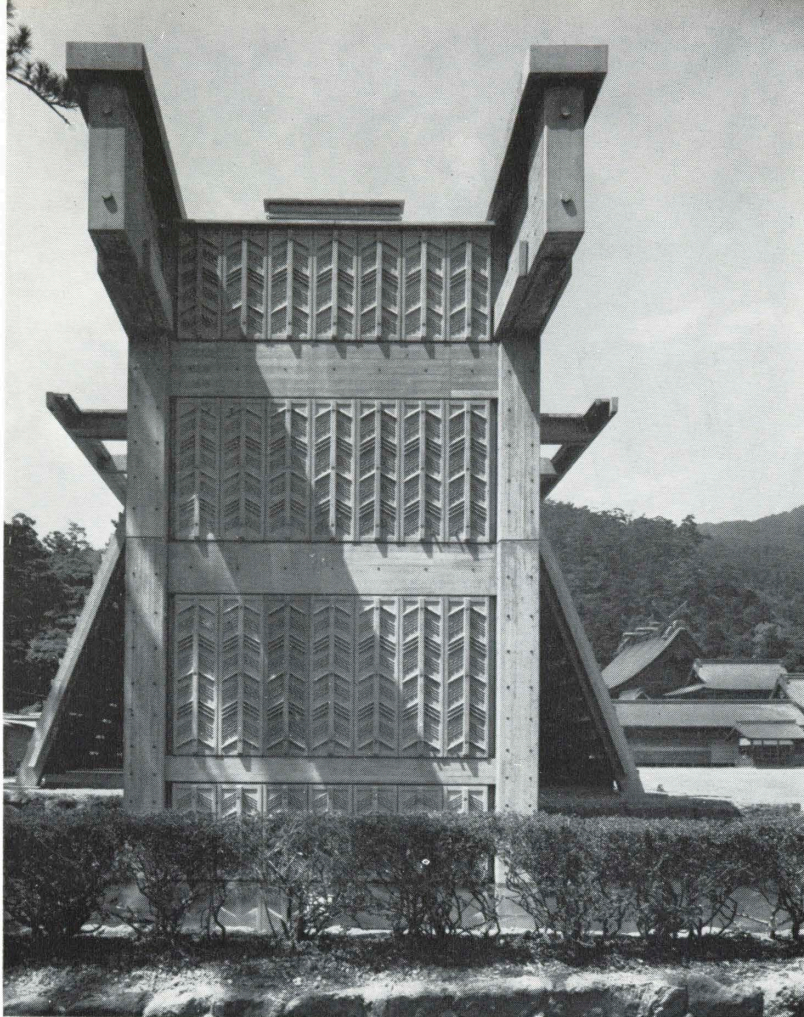
■ 正面玄関のドアグリル(デザイン：栗津潔) *Entrance door Design by Mr. Kiyoshi Awazu*



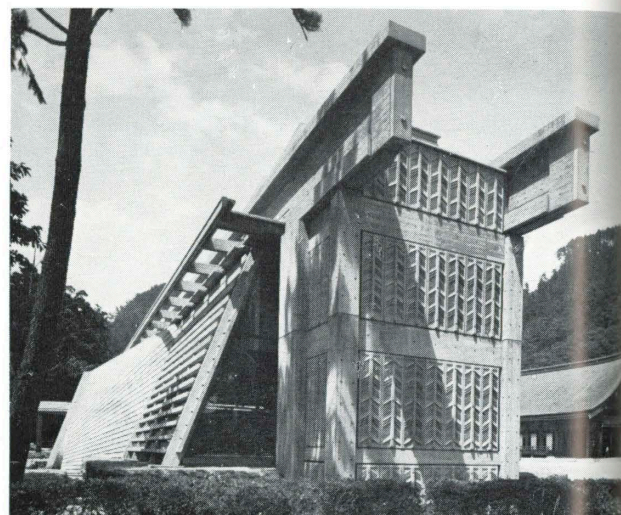
■ 正面入口 *Entrance*



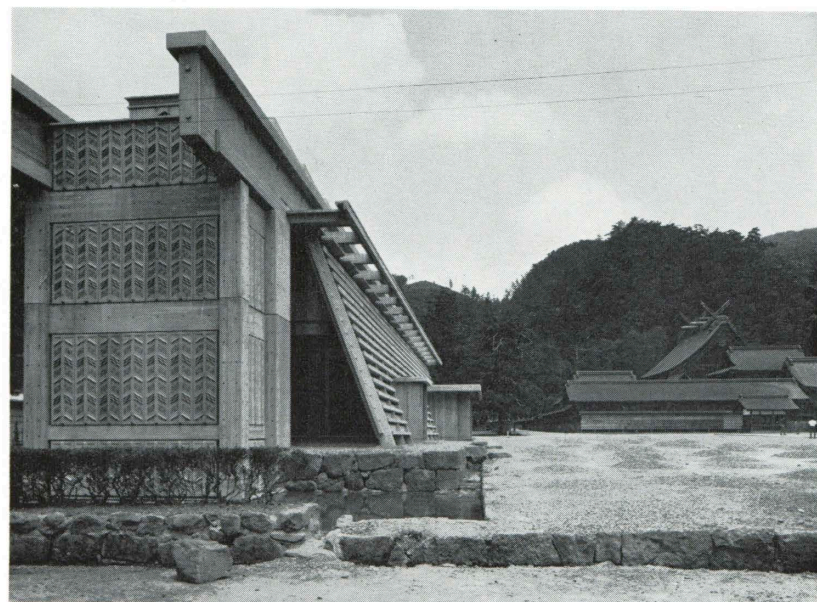
■ 正面全景 *General view*



■ 南面 View from the south



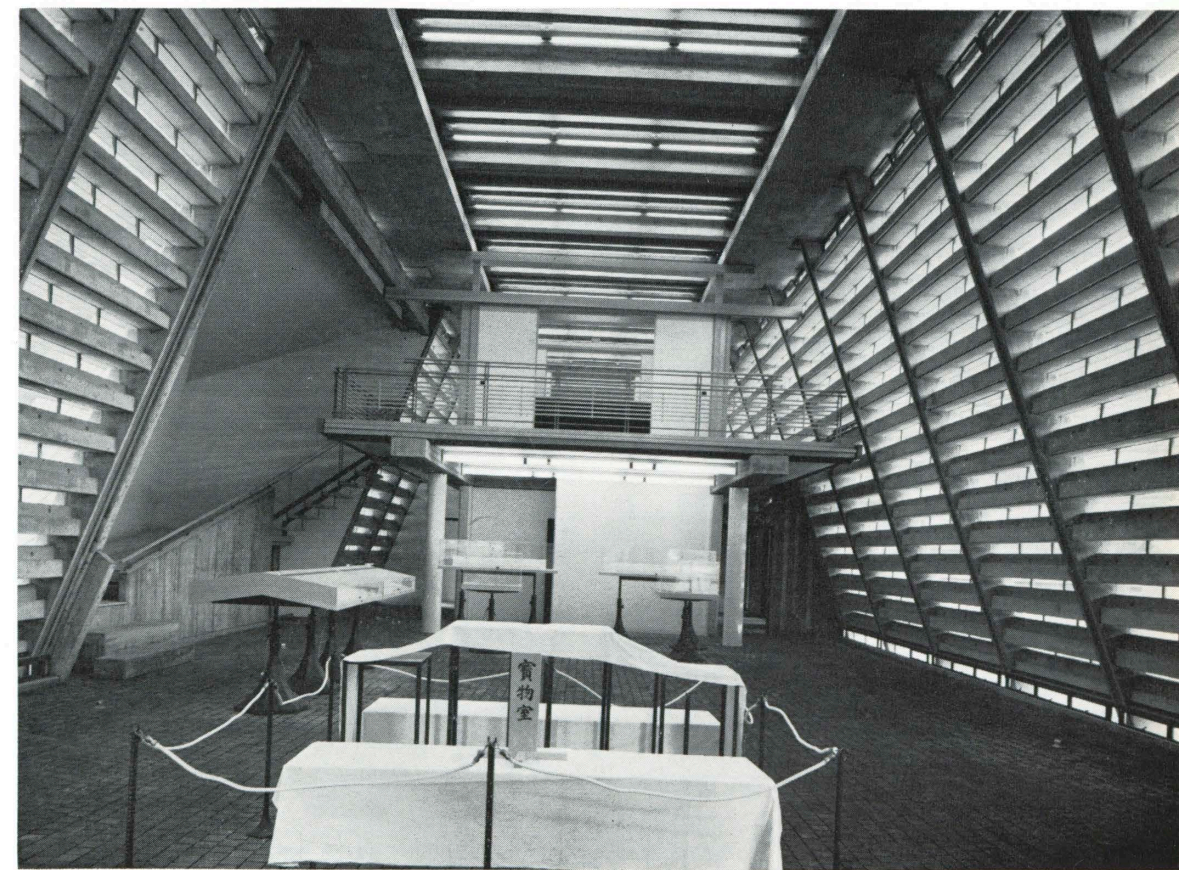
■ 南西面 View from the south-east



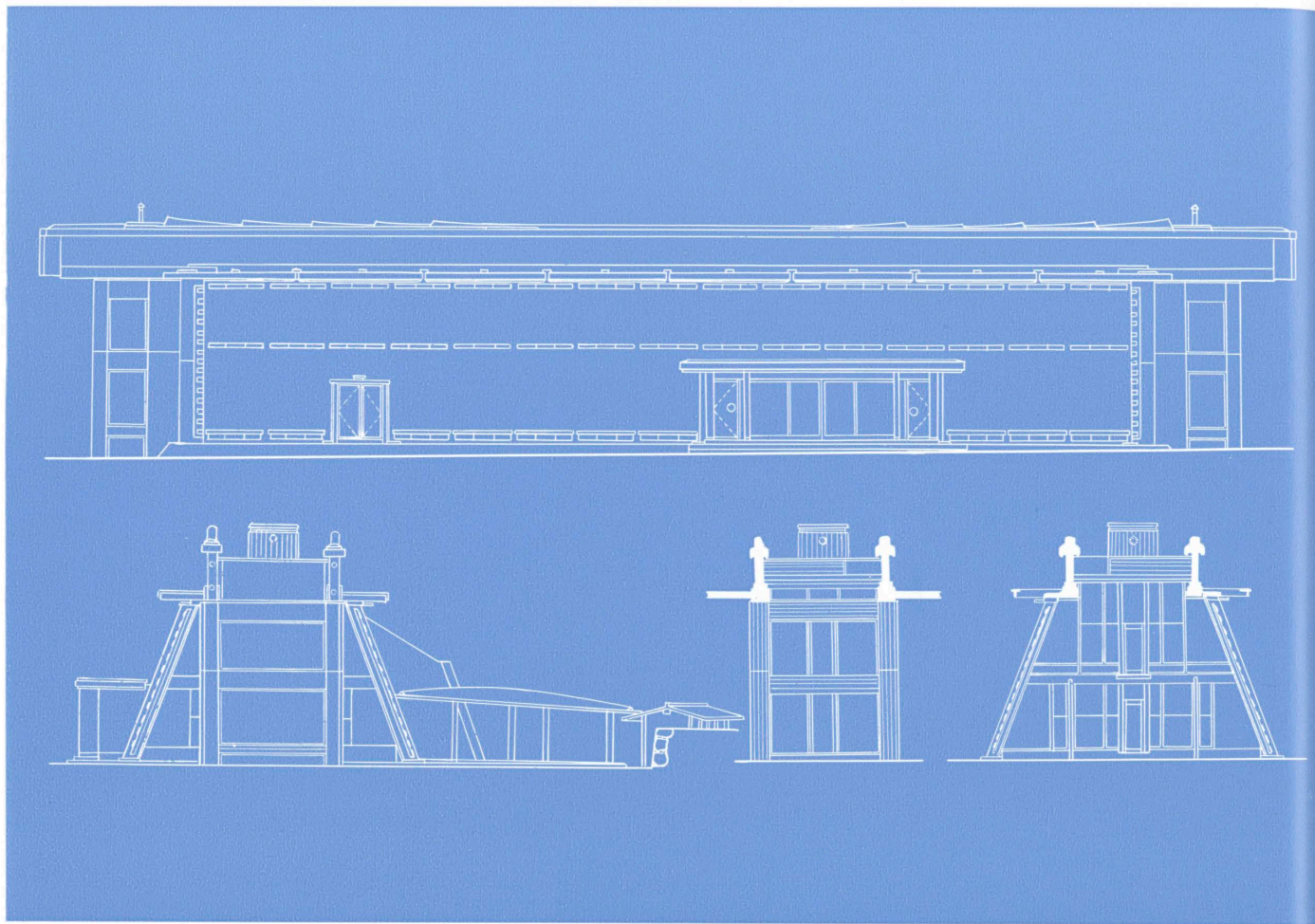
■ 出雲大社本殿と庁の舎(東南面) Chonoya building in the Izumo Taisha shrine's area



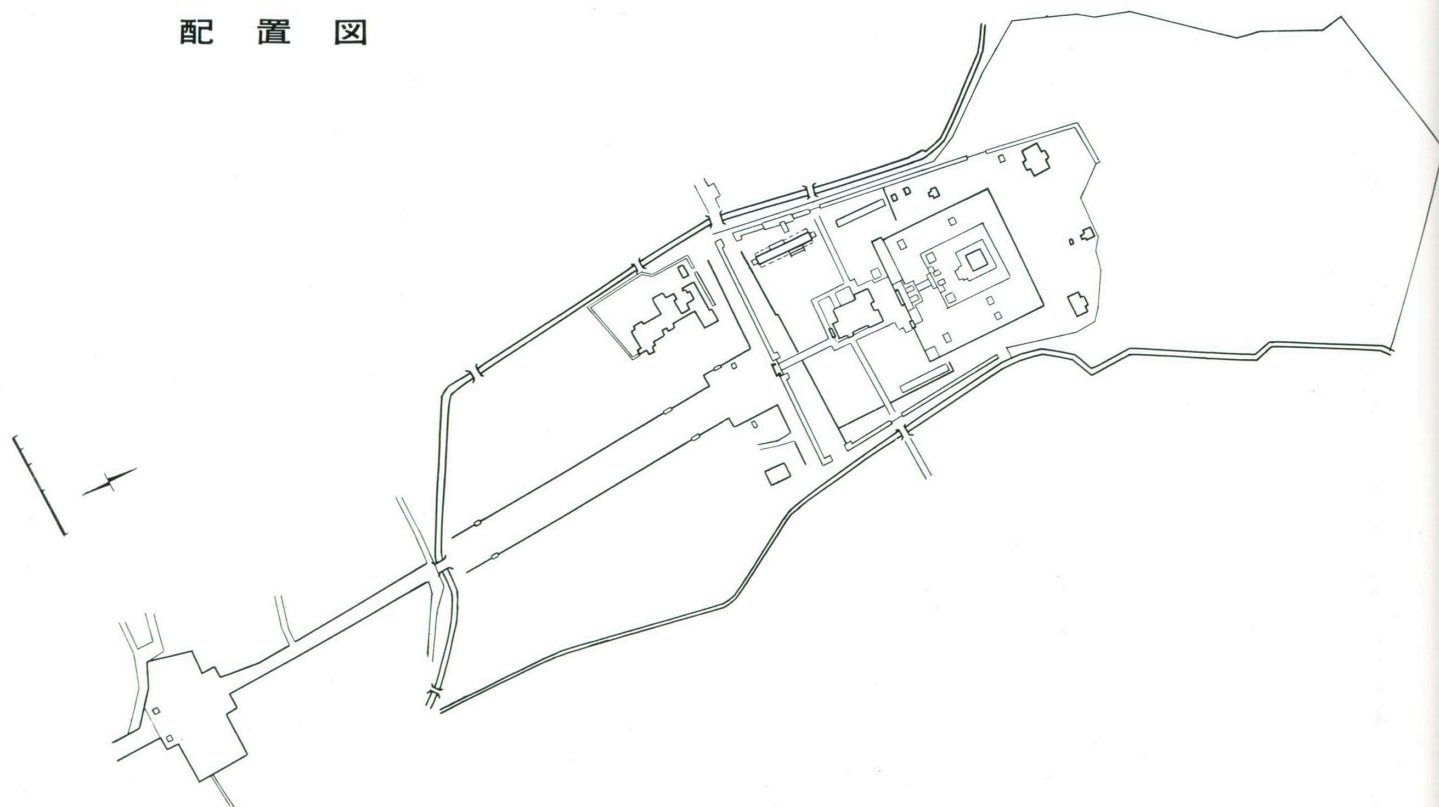
■ 1階宝物殿 Exhibition room on the 1st floor



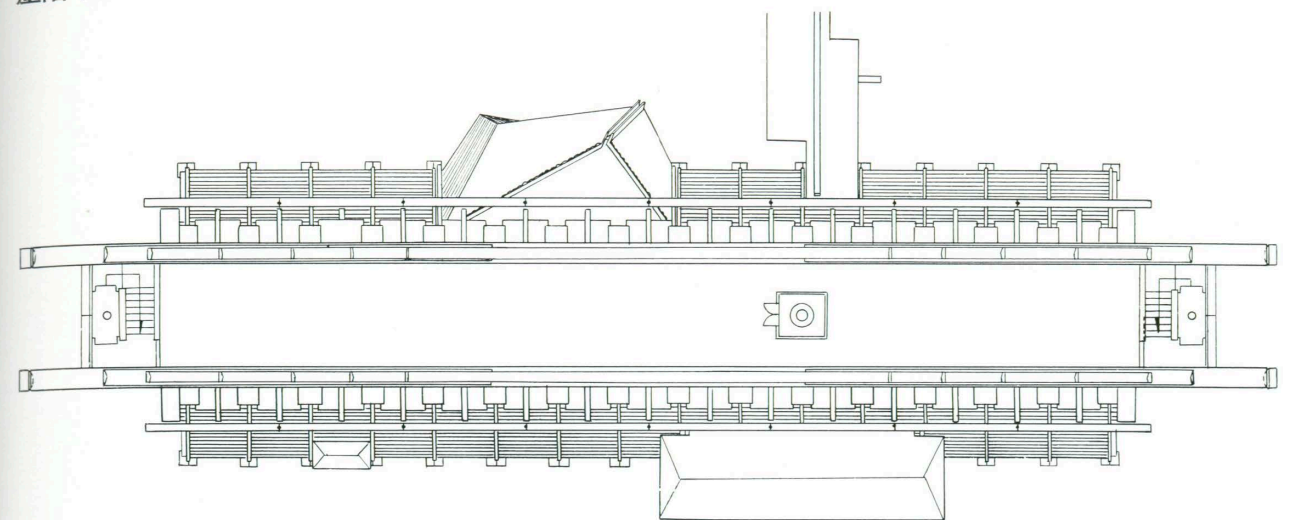
■ 2階儀式室廊下 Corridor of the ceremony room on the 2nd floor



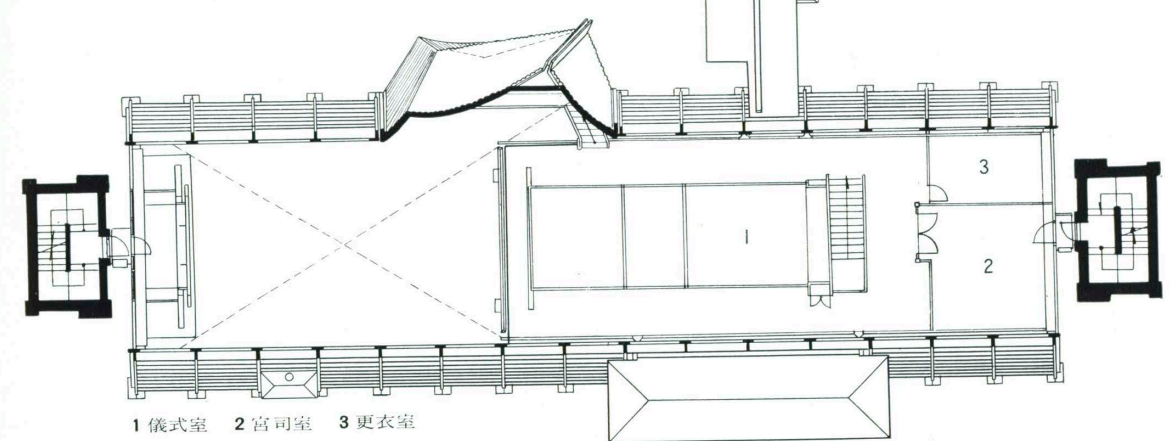
配 置 図



屋階平面



2 階平面



1 階平面

